

# 伊勢湾ぶらあるき

[第10回 / 「尾州廻船」について学ぶ]

■知多半島南部・内海～上野間 / 2018. 12. 1. (土) (14 km)



「ヤマサちくわ」は山ひとつ。こちらは入りヤマサで山ふたつ。関係は無いそうです。

往時の繁栄が偲ばれる「内田佐七家」のゆったりした邸内

「尾州廻船」模型



醸造場の跡とのことです

神楽船祭。  
駅の案内看板  
から写真を拝借



個人的な趣味です

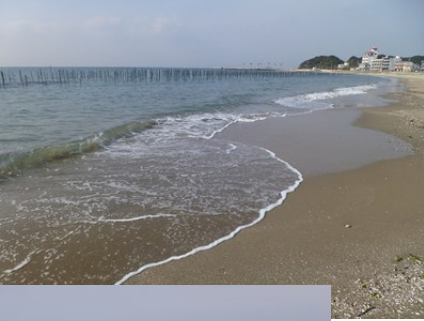
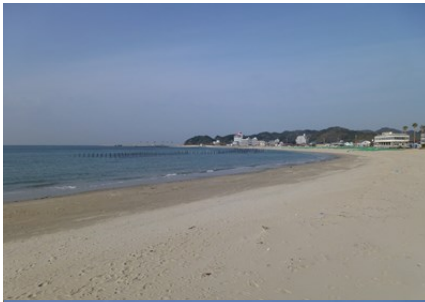


海近くには神社が多い



○今回のまとめ

- ・伊勢湾では古来から舟運が盛んに行われてきましたが、教科書で有名な「菱垣廻船」や「樽廻船」が積荷の運賃を利益とした「運賃船」とは異なり、「尾州廻船」(内海船・常滑船)は生産地で買い取った商品を運んだ先で売却するという「買積(かいつみ)方式」により次第に大きな利益を得て江戸時代後期から明治にかけて栄えました。
- ・「内田佐七家」(内海)は、尾州廻船全盛期の船主である内田家が住んでいた建物で、往時の繁栄を現代に伝えています。
- ・今回はガイドの方にじっくりと時間をかけて案内をしていただき、たいへん勉強になりました。(加藤)



平治の乱で東国へ逃れる源義朝が上陸した地。この地で「我に木太刀の一本なりともあれば」と言い残して討たれたという。野間大坊に墓がある。



向かい風が強く吹き、歩くに難儀しました。

